

特別支援学級担任教員に求められる専門性チェックシート（案）

項 目		できている	だいたいできている	少しできている	できていない
実態把握	児童生徒	児童生徒の障がいの状態、発達や生活経験の程度、興味・関心、生活や学習環境などの実態を的確に把握している。			
	児童生徒保護者	児童生徒本人と、保護者の希望や教育的ニーズを把握している。			
	個別の教育支援計画	これまで作成された個別の教育支援計画をもとに、関係機関や保護者と連携して、今後の支援や指導の計画を立てることができる。 児童生徒の実態や教育的ニーズを踏まえて、学校における合理的配慮の提供について児童生徒本人や保護者と合意形成を図って計画することができる。			
指導計画	個別の指導計画	児童生徒の実態から、具体的な目標や手立てを設定し、個に応じた指導・支援の実践に生かすことができる。 実践をふり返って評価を行い、指導・支援についての計画の見直しをすることができる。			
	年間指導計画	年間指導計画を作成したり、学級経営の目標（学級経営方針）を設定したりすることができる。			
学習活動	環境設定	掲示物を工夫するなどして、教室内の刺激の量を調整している。			
		構造化の手法（空間、時間、ワークシステム等）を取り入れたり、学級内のルールの明確化を図ったりしている。			
		児童生徒の不器用さや感覚過敏等への配慮ができています。			
	指示	注目を促してから、端的で、分かりやすい言葉を使って具体的な指示を出している。			
		具体物を用意したり、写真や図、文字などを提示したりするなど、視覚的支援を取り入れている。			
	教育課程	「特別の教育課程」について理解し、児童生徒の実態に応じて編成することができる。			
		「自立活動」のねらいや目標を理解し、児童生徒の実態と課題に応じた目標や内容を設定して指導することができる。			
		知的障がいのある児童生徒に対して行うことができる「各教科等を合わせた指導」について理解し、児童生徒の実態と課題に応じた目標や内容を設定して指導することができる。			
	授業	児童生徒の実態に応じた学習目標を設定して授業を実施し、実施後にはふり返りを行うなどして授業改善に取り組んでいる。			
		体験的な学習活動を積極的に取り入れるなど、授業展開を工夫している。			
学習活動の流れや内容などが分かり、見通しをもって学習に取り組むための視覚的支援を実施している。					
興味・関心を持ち、意欲的・主体的に取り組むことができるような授業を実施したり、復習など繰り返し学習する機会を設定したりしている。					
達成感や成就感を味わえるよう、スモールステップによる指導を計画し、教材・教具や手立てを工夫した授業を実施している。					
ポジティブ行動支援の考え方を、指導・支援に生かしている。					
交流及び共同学習において、「交流」「共同学習」それぞれのねらいや目標を交流学級担任や教科担任と共有し、連携して実施している。					
交流及び共同学習を実施した後は、交流学級担任や教科担任とふり返りを行うことで授業改善を行っている。					
指導案	特別支援学級の学習指導案の書き方が分かり、適切に作成することができる。				
評価	目標に照らした学習評価を行い、個別の指導計画の評価も踏まえて、通知表や指導要録への記入を適切に行うことができる。				

項 目			できている	だいたいできている	少しできている	できていない
人権教育・生徒指導	行動	児童生徒が適切な行動ができるよう、基本的な支援方法についての情報を集めたり、課題を分析したりして、指導・支援につなげている。	●	●	●	●
		児童生徒が自分のよさに気づいて自己肯定感を持ったり、家族や友だち、周りの人々を大切にできる心情や態度を養ったりできるような、常に配慮して指導している。	●	●	●	●
	関わり	児童生徒の人権を尊重し、多様性を認め、児童生徒のよい面をさらに伸ばす指導をしている。	●	●	●	●
		児童生徒の想いや心情を大切にしながら、本人ができることは積極的に取り組ませたり、不安感に配慮したりして、児童生徒の状況に応じた関わり方をしている。	●	●	●	●
	啓発	人権教育やコミュニケーションスキルの学習をはじめ、教育活動全体において、児童生徒の人間関係や仲間づくりのための指導・支援を継続して行っている。	●	●	●	●
特別支援教育についての知識	法令・制度等	校内外へ学級通信を発行したり、交流及び共同学習において発信したりして、特別支援教育について正しい理解を促すための啓発を行っている。	●	●	●	●
		障がい特性や、特性に応じた基本的な指導方法や支援方法等について理解している。	●	●	●	●
		特別支援教育の理念やインクルーシブ教育システム構築のねらい、合理的配慮の提供や個に応じた指導・支援の必要性について理解している。	●	●	●	●
		障がいの状態に応じた福祉サービスや制度について理解している。	●	●	●	●
連携	校内連携	特別支援教育コーディネーターや担任経験者の協力を得るなどして、校内委員会やケース会議などで、児童生徒の支援について話し合いながら取り組んでいる。	●	●	●	●
		チームとして全教職員で共通理解した教育活動を実践していくため、教科担任等と指導の方針や児童生徒の状況について情報交換や問題行動への支援方法、授業改善等について話し合いながら取り組んでいる。	●	●	●	●
		緊急時の対応(急病・事故・災害・不審者等)について全教職員で共通理解しており、適切な対応ができる。	●	●	●	●
関係機関との連携	特別支援教育コーディネーターの協力を得るなどして、関係機関等(医療・教育・福祉・労働・保健等の専門機関、当事者団体、NPO法人などの関係機関)と連携して児童生徒の指導・支援に取り組んでいる。	●	●	●	●	
	保護者連携	保護者の心情を理解し、想いに寄り添うなどして適切な信頼関係を築いている。	●	●	●	●
進路	進路指導	指導に関する提案をしたり、理解や協力を求めたりして、保護者と連携して一貫した指導・支援に取り組んでいる。	●	●	●	●
		他校の特別支援学級担任等に相談したり、相談に応じたりするなどして、特別支援教育についての情報を共有し、日々の指導・支援に生かしている。	●	●	●	●
		進学・転学、入退級の際の引継ぎ等、学びの場同士の引継ぎの大切さを理解し、引継ぎ資料を作成するなどして適切な引継ぎに取り組んでいる。	●	●	●	●
		多様な学びの場があり、必要な手続きにより、柔軟な変更が可能であることを理解している。	●	●	●	●
学級事務	書類作成	特別支援学校や中学校、高等学校など、進路先の学校の情報を知っている。	●	●	●	●
		就労について情報を集めたり、将来の就労のために今取り組むべきことを考えたりして、教育活動を実践している。	●	●	●	●
学級事務	会計	進路について、自己決定に向けての児童生徒支援、又は、保護者支援をしている。	●	●	●	●
		特別支援学級において整えておくべき書類について理解し、適切に作成することができている。	●	●	●	●
学級事務	会計	特別支援学級における教材・教具の管理や、会計等の管理が適切にできている。	●	●	●	●
			●	●	●	●